レッスン：SPA65

テーマ：素質的可能性のサイクル…プラス

SPA No.65/KE9/12/M

私の姉妹・兄弟達よ、スピリット、光、そして火の子供達よ。私たちは主、絶対、主の聖性に抱かれています。

以前のレッスンで、現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーの素質的可能性の二番目のサイクルをマスターするためにどのように進んでいくかについて、ある程度話しました。生それ自体から現在のパーソナリティーに対して与えられた素質的可能性のサイクルは全部で５つあります。しかし５番目は自動的に与えられます、つまりその素質的可能性が加えられるということです。

１番目のサイクルにおいては、パーソナリティーはどのような進歩成長にもフォーカスすることはありません。つまりパーソナリティーは完全に無知のなかで孤立した状態です。そのサイクルにある人間は全員が動物的なステートに非常に近いレベルです。そしてそのサイクルにいるパーソナリティーは、自分自身を向上させるために法則それ自体から与えられたいかなる方法をもワークすることはできません。

さて二番目の素質的可能性のサイクルではパーソナリティーは、覚えていると思いますが、いわゆる潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを現し始めます。１番目のサイクルは本能的意識のセルフ・エピグノシスでした。

さて、まさにその瞬間から（＊２番目のサイクル）、パーソナリティーはエレメンタルを築き始めますが、それは思考という聖なる贈り物によるものです。思考とは問いと答えの結果であり、また私たちは何かを他の何かと比べ、その結果、意味を創造します。そうです、意味を創造するためには何かを何かと比較する必要があります。何かにフォーカスし、それを別の何かと比べるのです。それによって対立する二元の意味が生じます…暑い・寒い、闇と光、というように。もし他方がなかったら、もう一つを理解できず、解釈することができません。

ですから、それは思考という聖なる贈り物の結果です。そして勿論、思考は無知のなかにいる現在のパーソナリティーだけのものです。生それ自体にとって思考は必要ではなく、二元性も必要ではなく、意味の創造も必要ありません。

それゆえ私たちが２番目のサイクルに入るやいなや、パーソナリティーにとって二元性は以前と比べてよりはっきりとしてきます。それまでは、それは本能的に表現され、それについて問いを抱くことはありませんでした。つまり、それまで人間はロボットのように生きてきたのです。

ですから１番目、および２番目のサイクルがありますが、それら２つのサイクルは地のエレメントの中にあります。人間がそれら２つのサイクルにある間は、人間は地のエレメント、実際に自分の墓のなかにいるのです。それに気づかない人間は、たとえどの方向にフォーカスしようとも、地のエレメントにフォーカスしているのです。そして人間は自分がフォーカスするものに従って、似たような価値を与えます。

さて、それらの各サイクルのなかで、現在のパーソナリティーは無数のより小さなサイクルを経ます。それは素質的可能性のサイクルではなくて、蓋然的可能性のサイクルです。そしてそれぞれの人間は自分自身の蓋然的サイクルを経ます。なぜなら、各人の経験は異なるからです。それは何の結果によって？自由意志の結果として、です。自由意志の結果、そしてそれぞれ異なる経験の結果として、私たちには個性、個人性(individuality)があります。そして前に述べたように、個人性という能力は人間のイデアに与えられたものですが、その理由はそれによって人間、あるいは魂のセルフ・エピグノシスが自己実現を現すためです。ですから私たちには現在のパーソナリティーの個人性がありますが、それは私たちが「私は私である」(I am I)と言うことができるためです。他の人とは異なる私として。勿論、それら全ての蓋然的可能性のサイクルは５つの素質的可能性のサイクル全てのなかにあります。

Page2

さて、人間が２番目のサイクルをマスターすると、現在のパーソナリティーは地中から出て、地のエレメントから出て、地上に立って、大きな四面ピラミッドのなかにいる自分を見いだします。大きな四面ピラミッドとは何でしょうか？このシンボルとは一体何でしょうか？なぜ四面ピラミッドのなかに立っている自分を見いだす、と言うのでしょうか？実際に四面ピラミッドの中に立つのでしょうか？違います。しかし、現在のパーソナリティーをマスターする助けとなる素質的可能性のサイクルに入るのです。つまり、大きな四面ピラミッドとは、現在のパーソナリティーをマスターすることを意味します。

ですから３番目の素質的可能性のサイクルは四面ピラミッドの中にあります。４番目、５番目のサイクルも同じです。しかし５番目のサイクルは４番目の上に突き出ています。なぜでしょうか？なぜなら、覚えているかもしれませんが、四面ピラミッドはそれが地のエレメントのなかの現在のパーソナリティーの部屋にある小さなピラミッドであれ、あるいは地上にある大きな四面ピラミッドであれ、それらには頂点がありません。あなたの前にある四面ピラミッドを見てみれば、もしそれが部屋のなかの小さなピラミッドであれば、その頂点は部屋の外にあります。しかし、大きな四面ピラミッドの場合、頂点が何かの外にあるのではなく、単に頂点がないのです。

何が頂点を創造するのでしょうか？それは人間の意識です。そして部屋のなかの小さなピラミッドについては、人間がそのサイクルをマスターすると、つまりその人がピラミッドの上に立つようになると、自動的にその人は自分が部屋の外にいるのを見いだすのです。

しかし、大きな四面ピラミッドについては、それは現在のパーソナリティーが四つのエレメントを完全にマスターし、現在のパーソナリティーの諸体についてマスターし、もはや二元性を必要としないことを意味し、その時には同調（attunement）がコミュニケーション、通信の手段となります。５つの超感覚ですら必要ではなくなり、勿論人間はそれ自身を表現する手段としてマインドのもっとも精妙なバイブレーションを使います。それはスーパーサブスタンスのバイブレーションであり、このマインドの海ではあらゆる諸宇宙がその中で泳いでいます。それゆえに、人間は他のどんな惑星あるいは太陽系をも訪れることができ、さらには諸宇宙のなかの様々な銀河にも行くことができます。なぜなら、あらゆる宇宙はこのスーパーサブスタンスのバイブレーションによってつながっているからです。いかなる人間も実存界における自分の諸体をマスターするまでは他の惑星を訪れることはできません。

５つの素質的可能性のサイクルについて話しましたが、過去にまた14のもう一つの素質的可能性のサイクルについても話しました。それは14のステーションで、それは天上人から現在のパーソナリティーに与えらたものです。そしてこれら全てのステーションまたはサイクル、それは非常に小さなサイクルなのですが、他の５つのサイクルとつながっています。それでは５つの大きなサイクルと14の小さなサイクルの間にはどんな関係があるのでしょうか？将来、それについてお話しましょう。

実際には、14の小さなサイクルは素質的可能性のサイクルではなく、別のものです。そうです、それらはイニシエーションと見なすことができます。しかし、それは分析するものではありません。それらすべてのシンボル、全てのピラミッドは人間が創造したものではないと前に述べました。神秘家はそれら全てを素質的可能性のなかで見いだします。それらは創造の不動の法則のなかにあるのです。誰もそれを作り、発明することはなく、それらはただそこにあるのです。適切な方法でそれにアプローチする必要があります。同じ事は創造のセル、つまり生命の木についても言えます。説明したように、この創造のセルは創造の元型であり、それはまた人間のイデアの元型でもあり、それは天上人によって与えられたものです。そして前に述べたように、最大のなかにあるものは最小の中にもあります。そしてまた、マクロコスモス（大宇宙）とメゾコスモス（中宇宙）、そしてミクロコスモス（小宇宙）の構造は全く同じです。

Page3

Ｑ：あなたはパーソナリティーに対する原因・結果の法則について話しましたが、多くの人々がこの原因・結果の法則に従わなければならないことを考えると心苦しくなります。特に戦争、化学兵器、大きな病気など…。それについてどう考えたらよいでしょうか？

Ｋ：まず、ある人々がある特定の地域に生まれるのは偶然ではありません。同じようにある人々がある両親のもとに生まれるのも偶然ではありません。なぜなら私たちは経験を受け取り、与えるためにこの世界に生きているからです。原因・結果の法則はそのように働いているのです。勿論、私たちには全てを変える能力があります；つまり現れのバイブレーションを変える能力があります。現在のパーソナリティーとして、私たちは思考・行動の仕方以外の何ものでもありません。私たちは問いと答えなのです；実際私たちは何をしているのでしょうか？私たちは伝達をしているのです。そして私たちが伝達したものは戻ってきて、私たちはそれを再び受け取るのです。言い換えれば、私たちは現れとして伝達者であり受信者なのです。そして現れと言うとき、それは現在のパーソナリティーです。

さて、もし現れのバイブレーションを変えるなら、自動的に受信のバイブレーションを変えることになります。私たちの受信機は自動的にチャンネルを変えるのです。ですから、過去に伝達したものを、結果として今受け取ることがなくなります。どこに原因・結果の法則があるでしょうか？いわゆるカルマの法則はどこにあるでしょうか？　　　　　　　　　　私たちには何であれ過去生から持ってきたものを変える能力があります。しかし、そのためにはバイブレーションを変えるためにワークする、努力する必要があります。つまり、気づきのレベルを高める必要があります。しかしテクニカルな手段、マジックによって現れのバイブレーションを変えるのではありません。確かにマジックによって、パーソナリティーは現象的にはパワーと能力を示すかもしれません。

なぜ「現象的には」と述べたのでしょう？なぜなら、不思議な出来事、現象は現在のパーソナリティーによって行われるのではなく、現象を行う現在のパーソナリティーによって養われるエレメンタルが行うからです。しかし、勿論そのようなエレメンタルにエネルギーを与えることによって、徐々にそのパーソナリティーは弱っていきます。なぜならエレメンタルがエネルギーを吸い取るからです。最初はエレメンタルはそのパーソナリティーを大いに騙します。パーソナリティーは自分が「行う」現象に大いに魅せられます。なぜなら、前に述べたようにその現象を行うのはそのパーソナリティーではなくてエレメンタルだからです。パーソナリティーは唯一気づきを高めることによってのみ現象を現すのです。そして勿論、唯一行うことを許された現象とは、他の全ての人類にとって有益となる現象だけです。そしてほとんどの場合、そのような現象は誰にも知られずに、こっそりと行われます。

ですから、カルマ、原因・結果の法則があり、何であれ私たちが経験するものはすべてこの法則の結果です。今自分に生じていることの原因は自分自身なのです。そうです、私たちは覚えていませんが、しかし、今自分に起きていることの原因は自分なのです。私たちはその結果を避けることができます。もしそれについてワークをするならば。もし今私たちが自分の現在のパーソナリティーの不定形の諸体についてワークをするなら、避けることができるのです。それらの不定形な諸体の形を再形成し、創造の元型、天上人と同じ形にする必要があります。なぜなら、現れのための手段を使用している間に生を完全に表現するためには、その現れは創造の元型と完全にマッチする必要があるからです。さもないと、生の現れは制限あるものとなってしまいます。無知のなかに入る人間、制限ある現れのなかに入る人間にとって、それを達成する必要があるのです。私たちの現在のパーソナリティーは生の現れではなくて、生の現象の現れです。

Page4

無知にいる間は、現在のパーソナリティーは生の影にすぎません。なぜでしょうか？前に述べたことを繰り返しますが、現在のパーソナリティーの諸体があるべき形を帯びていないからです。それらの体は初めは球体をしています。それは人間の英知によって人間に与えられたものです。そしてその形とはリンゴの形であり、それは生の英知によって与えられました。それによってやるべき仕事が達成されるようにです。そして肉体を意味するリンゴの肉があります。

実際、地のエレメントは他の全てのエレメントによって活性化されます。それがリンゴであり、また惑星の物質なのです。そしてリンゴのなかには、人間が他の人とコミュニケーションを取るためにセルフ（自己）を表現する手段があります。そしてまた私達には五感があり、リンゴのなかには五芒星があります。もしあなたがリンゴを切ると、そこには五芒星があります。

ですから、私たちには現在のパーソナリティーの不定形な諸体があり、それが人間に無知のなかに入る能力を与えます。そしてそれらの諸体はハートのセンターに根づいており、私たちはそれらの諸体の形を再形成する必要があります。現在のパーソナリティーの全ての体はハートに根付いているので、私達の現れに従って、肉体にその結果が生じます。つまり病気が生じるという意味です。しかし、現在のパーソナリティーの諸体を再形成する結果として諸体のセンター（＊中心）を分離させると、もはや肉体に病気が生じることはないでしょう。肉体の全ての各原子、分子、細胞のなかでは無数のアークエンジェル達が働いており、私たちが与えたダメージを修復し、肉体を維持しています。肉体を維持しているのは私たちではなく、また食べ物でもなく、それはアークエンジェルが行っています。肉体を維持しているのはアークエンジェルであり、朝私たちが起きるや否や、私たちは再び肉体にダメージを与え始めます。起きて意識が目覚めている間、私たちは肉体にたくさんのダメージをもたらします。それ故に睡眠が必要となるのです。それによって肉体がアークエンジェルの手に委ねられ、修復されるためです。その結果現在のパーソナリティーは翌朝より良い状態で目覚め、再び肉体にダメージを与えるのです。

Ｑ：それでは、もし私たちが今生で生きている間に３つの体を再形成するなら、病気は生じないということですか？

Ｋ：そうです。なぜなら、経験はもはや必要なくなり、苦しみも必要ないからです。自己実現に到達したパーソナリティーは転生のサイクルに留まるのでしょうか？前に述べたように、答えはイエスです。その人は留まるでしょう；その人はただ一つの理由、つまり人類を助けるために現れのバイブレーションを下げます。しかし、そのパーソナリティーにとって意味は異なります。そのパーソナリティーは他の全てのパーソナリティーのように苦しみを経験することはありません。しかし、現象的には彼らもそれを経験します。それによって他の人間たちがそのパーソナリティーを受け入れることができるように、そのパーソナリティーと交流できるようにです。そうです、自己実現したパーソナリティーは交流、通信の手段として五感を引き続き使うでしょう。なぜなら、もしそのパーソナリティーが通信手段として同調を使用するとしたら、どの人間と同調するのでしょうか？そのステートに到達した人にだけ同調することになります。どのような理由で？理由はありません。なぜなら、最初にそのステートに到達した人はまた最後にライン、境界を越える人だからです。なぜなら、実存の諸世界と存在の諸世界の間の境界はその惑星の全人類が越えることになるからです。それは最初の磔です；しかし最初にそのステートに到達した人、それは最初に磔を経験する人ですが、その人は最後に境界を越えて存在の諸世界に入ります。

ここから下は実存の諸世界であり、現在のパーソナリティーの諸世界です。しかし、それは人間が作ったものではありません。それは創造の不動の法則によって与えられたものです。そしてそれらの不動の法則のなかには素質的可能性の様々なサイクルがあります。このサイクル故に簡単な算数が働きます。１プラス１は２です。それはこのサイクルのおかげです；代数方程式などはこの素質的可能性の結果として機能しています。全てはこれらの諸サイクルのなかにあります。

Ｑ：一つの惑星の全ての現在のパーソナリティーが自己実現に到達し、テオーシス（＊神との再合一）に入る時、彼らはモナドとして入り、神の黙想のなかで一緒に働くのでしょうか？

Ｋ：前に述べたように、一つの惑星の全ての人々が自己実現に到達すると、全体としてのその惑星には創造界のなかで行うべき別の役目が生じます。その惑星の全ての人間がテオーシスに向かって進むということではありません。別の役目があり、それは他の諸惑星で不可視のヘルパーとして働くことです。例えば、他の太陽系、あるいは他の銀河系に存在する諸惑星のための不可視のヘルパーとして働きます。距離は問題ではありません、もはや距離はいかなる意味ももちません。どこであれ助けが必要なら、不可視のヘルパーは即座にそこに行きます。例え、助けを必要としている太陽系あるいは惑星が何億光年の距離にあろうとも問題ではありません。結局、パーソナリティー、人間がそのステートに到達すると、人間は自動的に宇宙を抱きしめることができるようになるのです。宇宙はそのパーソナリティーの内側に存在するようになり、同時にそのパーソナリティーは最小のなかに、あるいは無数の最小のなかに存在することもできるようになるのです。なぜなら、生の主な特質の一つは多重性だからです。

この多重性については多くのレッスンのなかで説明してきました。今でも全ての人間はそうと気づかずに多重性を現しています…意識的にではなく。そして説明したように、今でも人間は５つの超感覚を使用しています…意識的にではなく、無意識的に。つまり思考において、空想のなかで、記憶において、視覚化においてあなた方は５つの超感覚を使用しています。ファンタジー、空想のなかであなた方は５つの超感覚を使っているのです。

EREVNA SPA65/KE9/12M